

松平城(郷敷城)(国史跡)(豊田市松平町三斗蒔 11)

史料考察

徳川の家譜などでは、松平親氏が松平郷に到来したとなっているが、松平の村落名の初見は、天文元年 8 月 29 日の足助町四ツ松の十明神社唐櫃銘の三州松平に住む前出雲守沙弥道悦(松平長親)が奉納したとするものである。

それに対して、松平氏の姓名のほうは、親元日記に、寛正 6 年(1465 年)5 月 26 日松平和泉入道(信光)とあるのが初見。また、寛正年間に菅浦文書から、松平益親という人物がいたこともわかっている。

松平氏の名前のほうが、史料上初見であり、親元日記には松平郷という村落名は見えず、松平郷の初見が天文時代であることから、松平郷から松平氏が発祥したとする流れは疑問がある。

沿革

15 世紀以前の松平郷についての詳細は明らかではない。後世まとめられた松平氏の系譜によると、賀茂神社系の賀茂氏の末裔に当たる松平信盛が松平郷を開拓しその領主となり、松平太郎左衛門少尉を通称とした。つまり松平郷領主の松平氏である。14 世紀の末に南北朝時代の争乱で没落した世良田氏(得川氏)の出身と称する時宗の放浪僧の徳阿弥が父の長阿弥(世良田有親)とともに現地に流れ着き、当時の松平郷領主である信盛の後裔の松平信頼の子・松平信重は徳阿弥の和歌に通じた教養と武勇を買う。徳阿弥は還俗し、その娘婿となり松平三郎親氏と名乗り、松平郷領主の松平氏の名跡を相続したという。以上、徳川氏が三河守任官のため作成した系図によるが、近年の研究により否定されている。

親氏は松平郷の一角に松平城(郷敷城)を築き、その嫡子(実際は弟か叔父)とする泰親とともに近隣十数か村を切り従えたと伝えられるが、親氏は実在したかどうか疑問をもたれている。

泰親を継いだ信光は「松平三郎」(次郎三郎とも)を通称として、この松平氏は額田郡に進出し、岩津城(岡崎市岩津町)に本拠地を移した。このときの松平郷は、泰親の子で、信光の叔父(実際は親氏の子で、信光の庶長兄)の松平信広に譲られた。信広の子孫は松平郷を世襲し、「太郎左衛門少尉」のうち「左衛門少尉」を省き、代々「松平太郎」を通称として、松平郷松平家(挙母松平家)となった。

松平郷の地は江戸幕府により交代寄合に列せられた松平郷松平氏に改めて授けられ、江戸時代を通じてその所領であった。

明治維新後、周辺の村々とあわせて松平村ついで松平町となり、1970 年に豊田市に編入される。

現在の松平の地は、日本有数の工業都市豊田市にありながら、静かな趣のある山間の集落である。豊田市は松平親氏の没年を 1393 年とする説から 1993 年に「親氏公 600 年祭」を行い、松平信盛から松平郷松平氏に至る居館であった松平館近辺を「松平郷園地」として公園整備を行った。松平東照宮、松平城址や親氏の開基した松平家菩提寺高月院(徳川家光が改築。親氏と泰親の墓がある)も残っており、これらは初期松平氏の状況をよく残しているため「松平氏遺跡」として 2000 年に国の史跡に指定された。

Wikipedia による

